

平成4年度畑作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成4年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成4年12月3日、植調会館会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験2剤、作用性試験24剤、適用性試験44剤であ

った。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行な

った。

その結果は、次表の通りである。

平成4年度 畑作除草剤試験中央判定および使用基準

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 ／a	適用土 壤	適用地 帯		使用上の注意
1. BAS-3510 （Na） 液 ・ペンタゾン ………40%	大 豆	継							・薬害について 再検討．	
2. BGX-816 水溶 ・ピアラホス ……… 8 % ・グリホサート ………16%	大 豆 （ 不耕 起 ）	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	播種前	40～ 60 g	全土壌	寒冷地 以西	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する． 2. 雑草草丈30cm以 下で使用する．	
	かんし よ	実・ 継	一年生 雑草全 般	茎 葉	挿苗ま たは耕 起10日 以前	40～ 60 g	全土壌	温暖地 暖 地	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する．	・畦間処理につ いて再検討．
3. CG-119乳 + アトラジン水 和 ・メトラクロ ール………45% ・アトラジン ………47.5%	とうも ろこし	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	とうも ろこし の2～ 3葉期	20ml/ + 10 g	全土壌 （ 砂土 を除く）	寒 地		

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 ／a	適用土 壤	適用地 帯	使用上の注意	
4. CG-123 フロアブル ・メトラクロ ール……25% ・アトラジン ……15%	とうも ろこし	実・継 (前回どおり)	一年生 雑草全 般	土 壤	播種後、 雑草発 生前	20～ 40m/l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地 寒冷地		・イチビについ て再検討。
						10～ 30m/l	火山灰 土	温暖地 暖 地		
			茎 葉	とうも ろこし の2～ 4葉期	20～ 30m/l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地	1.生育の遅れる地 域(根鋤など) では2葉期処理 とする。		
					30～ 40m/l		寒冷地 以西			
5. DPX-16 顆粒水和 ・チフェンスル フロメチル ……75%	大 豆	継?								・処理時期の再 検討。
	小 豆	継								・効果、薬害に ついて再検討。
	菜 豆	継								・効果、薬害に ついて再検討。
6. Hoe-171-S 乳 ・フェノキサブ ロップ-P- エチル…6%	大 豆	継								・効果、薬害に ついて再検討。
	小 豆	継								・効果、薬害に ついて再検討。
	菜 豆	継								・効果、薬害に ついて再検討。
	かんし よ	継								・効果、薬害に ついて再検討。
	てんさ い	継								・効果、薬害に ついて再検討。
7. HSW-9104 乳 ・フェンメディ ファム ・デスメディ ファム ・メトラクロ ール	てんさ い	継								・効果、薬害に ついて再検討。

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 ／a	適用土 壌	適用地 帯		使用上の注意
8. JT-101 乳 ・ペラルゴン酸 ……………52%	落花生	継								・効果、薬害に ついて再検討.
	ばれい しょ	継								・効果、薬害に ついて再検討.
9. KUH-901 乳 ・ベンチオカー ブ……………50% ・リニュロン ……………7.5% ・ペンディメタ リン………5%	大 豆	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	60～ 80m ^l	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西	1. 砂の多い土壌で は、使用量を少 なめにする.	・地域拡大.
	落花生	継								・効果、薬害に ついて再検討.
	とうも ろこし	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	60～ 80m ^l	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西		・地域拡大, 効 果の再検討.
	ばれい しょ	継								・効果、薬害に ついて再検討.
10. KUH-901 細粒 ・ベンチオカー ブ……………8% ・リニュロン ……………1.2% ・ペンディメタ リン…0.8%	大 豆	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	400～ 500 g	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西	1. 砕土、敷地、覆 土は丁寧に行之、 均一に散布する.	・薬量について 再検討, 薬量 と草種による 効果の確認.
	落花生	継								・効果、薬害に ついて再検討.
	とうも ろこし	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	400～ 500 g	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地 東部	1. 砕土、整地、覆 土は丁寧に行之、 均一に散布する.	・地域拡大, 薬 量と効果につ いて再検討.
	ばれい しょ	継								・効果、薬害に ついて再検討.
11. Mon-8794 液 ・グリホサート ……………20%	かんし ょ	実 ・継 (前年どおり)	一年生 雑草全 般	茎 葉	挿苗ま たは耕 起10日 以前	30～ 50m ^l (水量 2.5～ 5 l)	全土壌	温暖地 暖 地	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する. 2. 少量散布の場合 は専用ノズルを 使用し均一に散 布する. 3. 雑草草丈30cm以 下で使用する.	・畦間処理につ いて再検討.
12. MW-851 液 ・ピアラホス ……………18%	ばれい しょ	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 萌芽前, 雑草発 生始期	30m ^l	全土壌	寒 地	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する.	

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 ／a	適用土 壌	適用地 帯	使用上の注意	
12. MW-851 液 (つづき)	ばれい しょ (つづ き)				植付後 萌芽前、 雑草生 育期	20～ 30m ^l		寒冷地 以西		
	こんに ゃく	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 または 培土後 萌芽前	30～ 40m ^l	全土壌	寒冷地 温暖地 東部	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。	
				茎 葉 (畦間)	生育期	30～ 50m ^l			1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかから ないように散布す る。 3. 雑草草丈20cm以 下で使用する。	
	ホップ	実	一年生 雑草全 般	茎 葉 (畦間)	生育期	30～ 50m ^l	全土壌	寒冷地	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかから ないように散布す る。 3. 雑草草丈20cm以 下で使用する。	
13. MW-DC 水和 ・ピアラホス ……………12% ・DCMU ……………18%	大 豆 (不耕 起)	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	播種前	30～ 40g	全土壌	寒冷地 以西	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 雑草草丈20cm以 下で使用する。	
14. NC-302① フロアブル ・キザロホップ エチル…10%	ばれい しょ	実・ 継	一年生 イネ科 雑草 (スズ メノカ タビラ を除く)	茎 葉	イネ科 雑草3 ～5葉 期	7.5～ 10m ^l	全土壌	寒冷地 以西	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理；広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	・地域拡大。
15. NP-55 オイル乳 ・セトキシジム ……………12.5%	てんさ い	実	一年生 イネ科 雑草 (スズ メノカ タビラ を除く)	茎 葉	イネ科 雑草3 ～5葉 期	10～ 15m ^l	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理；広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 ／a	適用土 壤	適用地 帯	使用上の注意	
15. NP-55 オイル乳 (つづき)	てんさい(つづき)		多年生 イネ科 雑草 (シバ ムギ, レッド トップ)			20m/ (2回)				
16. NP-55 乳 ・セトキシジム ……………20%	そ ば	実・継	一年生 イネ科 雑草 (スズ メノカ タビラ を除く)	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～5 葉 期	15～ 20m/	全土壌	寒 地 温暖地 暖 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する.	・地域拡大.
17. PL-10 乳 ・ペンディメタ リン……………15% ・リニュロン ……………10%	とうも ろこし	継								・効果, 薬害に ついて再検討.
18. S-604 乳 ・クレソジム ……………25%	大 豆	実・継 (前年どおり)	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～5 葉 期	1.5 ～ 2.5m/ (オイル 25 m/ 加用)	全土壌	寒 地 寒冷地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する. 2. 体系処理; 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	・地域拡大.
	かんし よ	実	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～5 葉 期	1.5 ～ 2.5m/ (オイル 25 m/ 加用) 5 ～ 7.5m/ (オイ ル無加 用)	全土壌	温暖地 暖 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する. 2. 体系処理; 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	
19. SB-508 乳 ・ジメテナミド ……………76%	大 豆	実	一年生 イネ科 雑草	土 壌	播種後	10～ 15m/	全土壌 (砂土 を除く)	全 域		

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 ／a	適用土 壤	適用地 帯	使用上の注意	
19. SB-508 乳 (つづき)	とうも ろこし	実・ 継	一年生 イネ科 雑草	土 壤	播種後	10～ 15m ^l	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西		・地域拡大.
20. SNC-105 フロアブル ・フルメツラム ………12%	大 豆	実	一年生 広葉雑 草	土 壤	播種後	4～ 6m ^l	全土壌 (砂土 を除く)	全 域	1. 体系処理; イネ 科雑草対象の既 登録除草剤を使 用する.	
	とうも ろこし	実・ 継	一年生 広葉雑 草	土 壤	播種後	4～ 6m ^l	火山灰 土	寒冷地 以西	1. 体系処理; イネ 科雑草対象の既 登録除草剤を使 用する.	・地域拡大, 土 壌拡大.
				茎 葉	とうも ろこし 2～3 葉期		全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地		
21. SSH-130 粒 ・トリフルラリ ン………1.25%	大 豆	継								・効果, 薬害に ついて再検討.
	こんに ゃく	継								・効果, 薬害に ついて再検討.

多くの作物に使える除草剤



トリファノサイド* 乳剤
粒剤2.5



シオノギ製薬

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541

*91.3.B52